

令和 6 年度 静岡県立裾野高校第 1 回学校運営協議会 議事録

1 校長 挨拶

田代直彦校長 挨拶・自己紹介

2 任命状交付・自己紹介

山本 睦委員（常葉大学保育学部教授）

高橋智浩委員（裾野市社会福祉協議会）

小田圭介委員（総務省地域力創造アドバイザー）

志田忠弘委員（NPO 法人理事）

杉村千鶴委員（PTA 会長）

*山本委員、杉村委員は所用のため欠席。

大石副校長以下、簡潔な自己紹介（芹沢教頭、相馬事務長）

3 静岡県立高校における学校運営協議会の設置等に関する規則・要綱などについて

4 静岡県立裾野高等学校における学校運営協議会の設置等に関する要項について

5 会長・副会長の選出

委員の話し合いにより、高橋委員を会長に選出。小田委員を副会長に選出。

6 議事（司会 高橋会長）

（1）令和 6 年度学校経営計画について

田代校長：

- ① スクールミッション、スクール・ポリシー、スクール・ポリシーの具現化の柱は昨年のものを継続する。
- ② 昨年度の反省を生かして、実際の達成目標と差が大きかった数値を変更した。
 - ・「委員会活動が活発であると答える生徒を昨年度 70%以上」を 65%以上に変更した。
 - ・「読書活動・NIE を推進し、図書館利用率を向上させるとともに生徒の言語活動・表現力の充実を図る。」では、より読書に重きを置きたいと考え NIE を除いた。これは、授業などで新聞を使わないということではない。家庭で新聞を取らなくなっており、Web ニュースの見出しから情報を得ているという実状で、どうやってとりくませるか検討している。
 - ・「PTA 総会の出席率 30%以上」としていたが、PTA 総会だけでは出席率が上がらないのではという意見から「PTA 総会・学年保護者会の出席率 30%以上」とした。
 - ・以前の台湾の修学旅行を踏まえて実施して「国際的視野を養う修学旅行の準備、安全な実施、事後指導を計画的に行う。」としていたが、現在の修学旅行では現状に合わない。また、探究活動の取り組みを国際的視野をだけでなく福祉介護系列や人文国際系列なども含めて広げ、探究する機会を設けることとし「職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。」とした。
 - ・「報道提供件数を 20 件以上」にした。年間 54 週に対して昨年度の 50 件以上では多いので、月 2 回程度の情報提供をすることに変更しました。

(2) 質問や意見

① NIE・読書活動についての意見

新聞については、回し読みをする等、新聞とはこのようなものであることを分かってもらえることも必要だ。読書では、図書館で本を借りている率が良いので伸ばしていければと思う。

② 報道提供件についての意見

年 20 回も大変だと思う。

情報提供については、ダメ元で情報提供して新聞社と連携を保ち情報提供を続けることが大切だ。

学校経営計画の基本は変えずに、実状に合わせた数値目標の修正してやってみることは良いことだ。

③ 学校運営全体についての質問や意見

学校教育の中で、社会教育の持っている可能性を理解している先生が一人いるだけで、設計側に関われるので、そういうのもありではないか。社会教育士の資格をもった方の配置を希望する。

総合型選抜に強い先生が欲しい。総合型選抜、学校推薦だけではなくて、四大を目指して行くみたいなのは増やして行きたい。総合型選抜の入試制度に明るくて生徒が入学当初は希望していなくても、その話を進められる方が欲しい。

④ ボランティアの募集についての質問や意見

高校では、中学校ごとの卒業生に向け募集することができると感じる。その可能性がある高校であるということは、中学校には良い存在になっている可能性がある。一方、先生方に負担がかからないように、募集をかけたけど応募がいなくても気を遣わなくても良い関係をつくっていききたい。

ボランティア等の情報を流すことにより、反応する生徒がいる。以前ふじのくに災害ボランティアコーディネーター養成講座参加を募集し、裾野高校の生徒が参加してくれた。その際に、図上訓練の希望があったので、お話しさせてもらった。また、情報があれば、提供させてもらいたい。

また、地域の人がかかわるきっかけとして今年はトークフォークダンスの日程を決めた。

⑤ 学校独自選抜（裁量枠Ⅱ）についての意見

裁量枠Ⅱは戦略的に動いて設けた枠なので、中学校に対する提供できる武器としていきたいという話を最初からしている。そのためには、この枠で入ってきた子たちが、学校説明会などで生徒が自身の言葉で語って欲しい。

(1 時間 53 分)